大森消防団だより

Vol. 71

2025年11月28日発行(12/2修正)
発行所　大森消防団広報委員会

合同点検　一斉放水

- 目次 -

1. 都大会を終えて
2. 井戸の水でつなぐ安心～宮ノ下にこにこ公園で実証訓練～
   ハロウィンで楽しく学ぶ防災～馬込西二丁目町会で地域交流～
3. 消防団活動
4. 消防団員ご紹介
5. 編集後記

紙の「大森消防団だより」をご希望される方は
各分団の広報委員へお知らせください。

都大会を終えて

長期にわたって訓練のご支援、ご指導ありがとうございました。選手を代表してお礼申し上げます。

今回の都大会は残念な結果になってしまいました。大会本番に向けての3ヶ月間の訓練は、各分団の分団長をはじめ多くの団員の皆様が支援に来て下さって凄く助かりました。過去にない充実した訓練をする事ができました。訓練自体も楽しく出来たので良かったです。選手皆、身体ボロボロになりながら誰1人欠ける事なく無事に本番を迎える事ができました。

最高のメンバーでした。　[第一分団　指揮者　清水信吾]

はじめに今回の都大会出場にあたり、サポートして下さった大森消防署の皆様、大森消防団の皆様に御礼を申し上げます。ありがとうございました。

私自身、4度目の都大会となりました。1度目は新入団員で支援として参加。2度目、3度目は選手（1番員）として出場。4度目（今回）は指導者として参加させていただきました。

今回の訓練は、前回得た教訓から、岡部副団長のもと選手と指導者が一丸となり7月の早い段階で学校からの指導を受けて減点項目の洗い出しをして、そこを直す作業から始めました。同時に私も指導書ををもう一度読み直して、足りなかったところ、理解せずに流していたところ、学校の指導と私自身がやっていた事との相違点を確認し選手と共に正しいものを作ったつもりです。

本来なら1番員として出場するはずでしたが、4年前にコロナに罹患し重症化、、生死の境を彷徨いなんとか生きて帰ってこれましたが、選手を続ける体力は戻らずで支援にまわりました。悔しい気持ちもありましたが指導者として全体を見る事が出来てすごく勉強になりました。

選手達も最後の都大会という気持ちで懸命に訓練をしました。思っていた結果ではありませんでしたが、大森消防団として得るものが大きかった大会だったと思います。次回がとても楽しみです。

最後に、連日の猛暑の中、選手たちは本当に大変でしたしよく乗り切ってくれたと思います。そして、毎回支援に来てくださった各分団の皆様ありがとうございました。本当に助かりました。

また、皆勤で指導に来てくださった団本部の岡部副団長、中沢副団長、加藤副団長　本当にありがとうございました。

岡部副団長には指導者として多くの気づきと勉強をさせていただきました。ありがとうございました。[第一分団　平林陽一]

井戸の水でつなぐ安心
～宮ノ下にこにこ公園で実証訓練～

10月19日（日）宮ノ下にこにこ公園で「災害時の井戸水活用実証訓練」が行われました。住民の皆さんと第6分団・第7分団で井戸から水をくみ上げ、マンホールを開け、災害用トイレと目隠し用テントを設置。実際に体を動かしながら、災害時の対処方法を確認しました。

熊本地震や能登半島地震では、長い断水が続き、水の確保に苦労された方も多かったそうです。その際、井戸や湧水を活用して生活用水を確保したという事例も報じられています。身近にある井戸の存在を知り、いざという時にどう活用できるかを考えておくことの大切さを感じました。

大田区内には、災害時に生活用水として無償で利用できる井戸が複数あります。今回の取り組みが他の地域にも広がり、地域全体の“減災力”が高まっていけばうれしいですね。

ハロウィンで楽しく学ぶ防災
～馬込西二丁目町会で地域交流～

10月26日（日）馬込西二丁目町会で「ハロウィン防災」が開催されました。防災カルタ、大きな声を出してみよう！（救援要請訓練）、家具転倒防止間違い探し、こども用AED体験など、ハロウィンの楽しい雰囲気の中で、防災を学べる工夫がいっぱいのイベントでした。

大田区・大森消防署・PTA・財団の皆さんが協力し、子どもたちは遊びながら防災意識を高めていました。おもちゃのAEDを使った訓練では、子どもたちのテンポの良い胸骨圧迫に大人たちもびっくり！元気になったぬいぐるみを抱きしめる姿はとても可愛らしく、会場内が笑顔になりました。

「次はクリスマス防災かしら？」という声も聞かれ、楽しいイベントを通して地域のつながりと“防災力”を深める、温かいひとときとなりました。

［第7分団　藤井 直美］

消防団活動

■大田区消防団　合同点検

今年はあいにくの雨の中でしたが、滞りなく実施されました。
当日は、大規模災害が発生したと想定し、5分団の特殊技能団員が電柱除去作業を行いました。

■大森消防署管内　火災による死者ゼロ1000日達成

消防団員ご紹介(1/2)

■第１分団　木村 敦 団員 (団歴３年)

①入団のきっかけは？

いつも行く居酒屋で大森消防団の団員の方にお会いし、消防団の活動内容等お聞きしているうちに、自分の残り少ない人生、微力ではありますが、社会貢献したいと思いまして、入団することと致しました。

②入団して印象に残った事

右も左も活動服の着方もわからない時、先輩団員の方々から色々丁寧に教えて貰えた事です。

③これから消防団活動で取り組みたい事

救命講習をはじめ様々な講習への参加、市民消火隊等のお手伝いを通じて、社会貢献をしたいと思います。

■第３分団　石黒　新 団員（団歴１年）

昨年9月に大森消防団第三分団に入団しました石黒です。同じマンションの方に誘われ、自分も地域の力になりたいと思ったことがきっかけです。入団後は操法大会に出場し、仲間と力を合わせて目標に取り組む楽しさを実感しました。

普段はNECでマーケティングの仕事をしており、データ分析をもとにした戦略の立案を担当しています。会社のパーパスである「安心・安全な社会の実現」は消防団の理念とも重なり、仕事と地域活動の両方で社会に貢献できることにやりがいを感じています。

趣味は海外旅行で、昨年はエジプトを訪れ、壮大さと人々の情熱に触れました。今年は、ロサンゼルスでドジャースの大谷翔平選手の試合を観戦し、個人の全力で挑む姿勢やチームの連携の大切さに刺激を受けました。

これからも情熱とチームワークを大切に、地域のみなさんの安心を守る一員として力を尽くして活動していきたいと思います。どうぞよろしくお願いします

消防団員ご紹介(2/2)

■第６分団　高橋 愛朗 団員 (団歴2年)

入団したきっかけは、町内会の会合での消防団員からの勧誘でした。健康であれば年齢制限はなく、自分の出来る範囲で大丈夫とのことでしたので、入団手続きをお願いした。

定期訓練以外に特別警戒等の予定が想像以上に多いので戸惑いましたが、それだけ地域にとって消防団は無くてはならない存在であると実感しています。

本年6月には、ポンプ操法大会に4番員として出場しましたが、練習通りに操作することができず、自分自身に対しての不甲斐なさと共に、親身になってご指導くださった諸先輩たちに対する申し訳なさで悔しい思いをしました。

再度、出場出来る機会があれば、本番にしっかりと操作できるように訓練を続けたいです。

救急救護に関しては、一人でも多くの方に、その重要性をご理解頂き、基本となる方法を習得頂けるように自分自身の訓練を継続していきます。一斉メールで送られてくる「出火報」は受信するたびにドキッとしますが、「煙、臭気なし」の報告が届いた際には、地域の安全に安堵、感謝しています。

今後も自分自身が消防団員であることを知人に伝え、消防団の重要性を訴えてまいります。

■第７分団　福家 節子 団員 (団歴５年)

散歩中に消火栓を見つけ「これは何ですか？」と近所の奥さんに尋ねたら「消防団に入らない？」と声をかけられ入団してから、もう４年以上が経ちます。

「整列っ、休めっ」の号令にしばらく違和感があり、自分のイメージと消防団が重ならず戸惑う日々で、自己紹介で「間違って入団した福家です」と言っていました。

それでも参加した救命講習会で貴重な経験と学びを深めながら、前向きで刺激を受ける仲間と出会えたことに、今は感謝でいっぱいです。「出来ることから一歩ずつ、地域の人のお役に立てる自分になりたい」と思って活動参加していきます。

編集後記

今回の消防団だよりをお届けするにあたり、私たちの最近の活動について振り返りたいと思います。先日、地域での救命講習に出向し、多くの方々に心肺蘇生法や応急手当の重要性をお伝えすることが出来ました。参加者の皆さんが真剣に耳を傾け、実技を通じて技術を身につける姿に、私たちも感動を覚えました。また、 大規模火災に出場する機会がありました。火の勢いに圧倒されながらも、団員一丸となって消火活動に取り組みました。地域の安全を守る為に、迅速な判断と協力が不可欠であることを強く実感しました。これらの経験を通じて、私たちの使命の重さと、それに対する誇りを新たにしました。

これからも、地域の皆さんと共に防災意識を高め、信頼される消防団であり続けることを誓います。引き続きご支援を頂けますよう、お願い申し上げます。

次回もどうぞお楽しみに!!　[本団　波田野 秀雄]

大森消防団広報委員会

●編集長	第1分団	平林 陽一		
●副編集長	第3分団	小堀 恵		
●編集委員	第2分団	小澤 雅則	第4分団	安島 千也
	第5分団	原田 裕	第6分団	山口 フヨ
	第7分団	大島 剛	第7分団	藤井 直美
	第8分団	浦勇 和也		
●顧問	団本部	波田野 秀雄		

© 2025 Omori volunteer fire corps.